



発行：長田区医療介護サポートセンター
神戸市長田区松野通1丁目2-1 長田区医師会内
TEL：641-5661 FAX：641-5662

新年明けましておめでとうございます



新年のご挨拶

長田区医療介護サポートセンター
センター長 岡林 孝直

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は長田区医療介護サポートセンター事業に数々の御協力御尽力をいただきまして心より感謝申し上げます。

今年の干支は「亥」です。「亥」は無病息災、情熱、繁栄のシンボルとして縁起のよいものとしてあがめられてきました。皆様方にとりまして幸多く、実り多い年でありますようにお祈りいたします。

さて2025年問題の対策、地域医療構想のなかで神戸市においては公的病院に対する「公的医療機関等2025年プラン」の作成が終了し各公的病院の今後向かうべき方向性が示されました。今後は各地域で地元の医療資源や状況に応じた在宅の医療介護の提供体制を構築していかなければなりません。医療と介護の両方を必要とする高齢者の方が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができ、望む人は自宅での看取りも選択できるよう、切れ目なく在宅医療と在宅介護が一体的に提供できる体制を地域で作っていく必要があります。むずかしい問題ですが、医療介護の連携拠点である当センターと多職種連携を強化し地域包括ケアを構築し、医療介護関係者間で患者さんを中心とした提供体制を作りたいと考えております。

従来の相談業務はもちろんのことですが、迅速な情報提供、研修会、勉強会の充実も行ってまいります。

スタッフ一同猪突猛進することなく事業に取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



長田区医療介護サポートセンター相談件数

○平成30年9月～12月実績 相談件数 29件

〈相談者種別〉

病院 3件 診療所 7件 あんしんすこやかセンター 7件

居宅介護支援事業所 10件 区役所 1件 その他 1件

〈相談内容〉

訪問診療・往診医の紹介 13件 医療機関（病院・診療所等）の紹介 4件

訪問看護について 1件 介護資源について 1件 認知症について 1件

入退院支援について 1件 制度に関すること 2件 その他 7件



お気軽に
ご相談ください

長田区医療介護サポートセンターの取り組み

<市民啓発事業>

長田区保健医療介護フォーラム

※テーマ※

住み慣れた長田区で最期まで暮らし続けるために
～シリーズ2 摂食えん下障害～

平成30年10月20日(土)
神戸市防災コミュニティセンター 多目的ホール
参加者：68名



<講演1>

「耳鼻科が診るえん下障害」

長田区医師会 副会長 中村 陽子 先生

<講演2>

「健康寿命を延ばす『食』」

兵庫県歯科医師会

地域保健担当理事 砂治 國隆 先生

<講演3>

「えん下障害と薬」

長田区薬剤師会 会長 大塚 徹 先生



劇団はなみずき 自宅で最期まで暮らし続けるための
医療と介護の利用方法 パート2
寸劇 ～人生の最後まで食べる幸せを～

- ・講演は、三師会の各立場からの講演で、それぞれの役割や訪問診療などについてやえん下について改めて理解してもらえる機会となりました。
- ・参加された市民の方は、日頃から飲み込みが気になるなどテーマに関心がある方が多く、質問も積極的に行われていました。
- ・第二部の寸劇では多職種での支援体制やえん下体操について知っていただくことができました。

【アンケートより】(講演について)

- ・よくわかった…74%、わかった…26%、むずかしかった…0%
- ・図、説明文、話し方が大変親切に詳しくご説明いただき、理解しやすく伺いました
- ・耳鼻科か歯科で相談できることがわかりました

(寸劇について)

- ・よくわかった…70%、わかった…30%、むずかしかった…0%
- ・テンレンジャーのそれぞれの役割がよくわかりました。えん下体操もよかった。万全もあってよかった。よくわかった。いろんな職種の人がかかわることがよくわかった。
- ・寸劇として見れたので、楽しく、分かりやすく学べました。



<市民啓発事業>

まちの文化祭

平成30年11月25日(日)

ふたば学舎

「在宅医療」についての啓発パンフレットと
#7119の啓発グッズを233部様々な世代に配布しました。



多職種連携研修

平成30年10月18日(木) 神戸市防災コミュニティセンター 多目的ホール

＜長田消防署との共催＞

参加者：33名

※テーマ※ 高齢者の救急対応について ～救急搬送の現状と多職種の役割について～



＜講演＞

「高齢者の救急搬送の現状と家庭内の事故予防と転倒事故について」

講師：長田消防署 消防防災課
救急係長 松田 泰員 氏

＜グループワーク＞

～救急搬送までの対応と日頃からの連携や準備について～

＜各グループの進行役＞

長田消防署 救急隊の皆様

・グループワークでは、救急隊員からの要望やほしい情報などを伝えていただくとともに、日頃からの対応について話し合い、安心シートやカードの活用、日頃からの連携について話し合え、救急隊員の方と顔のみえる関係づくりを行うことができました。また、#7119についても対応や活用方法を実際に利用したことのある方の声や救急隊員の方の説明も聞け、今後支援している利用者の方への周知を行っていきたいとの意見も聞かれ良い機会となりました。



＜実技＞ 長田消防署主催

「家庭内事故がおきたときの対処方法について」

【アンケートより】

(講演について)・よくわかった…57.6%、わかった…30.3%、むずかしかった…12.1%

(グループワークについて)・とてもよかった…58%、よかった…42%

- ・グループワークに参加して下さった救急隊員の方がとても親切丁寧な指導等をして下さいました
- ・三角巾を使った処置の方法を何度もいねいに教えていただき参加できてよかった

ながサポクラブ

平成30年11月15日(木) 長田区役所 6階 多目的室

＜区内あんしんすこやかセンターと共催＞

参加者：64名

※テーマ※区内病院との連携方法を考えよう



・各病院から病床や特徴について紹介

・グループワーク

「今後の連携のため日頃の疑問を聞いてみよう」

各グループに地域連携室の方が参加

※参加病院※

神戸協同病院、公文病院、新長田眼科病院、
適寿リハビリテーション病院、野瀬病院、
神戸朝日病院、神戸市立医療センター西市民病院、
神戸百年記念病院

【アンケートより】＜意見＞

- ・各病院のそれぞれの特徴が聞けてよかった（地域包括ケア病棟が増えているのに驚いた）
- ・病院紹介は簡潔明瞭でよかった。・グループワークの時間が短い。
- ・一度でもお会いできたりすると怖くないなあと思った。

グループワークで出ました質問につきましては、各病院からお返事をいただいております。
別紙「ながサポ通信 別紙」をご参照ください。



地域で働くリハビリテーション専門職が増えています



リハビリテーションとは



1981年に世界保健機関(WHO)は、「リハビリテーションは、能力低下やその状態を改善し、障害者の社会的統合を達成するためのあらゆる手段を含んでいる。リハビリテーションは障害者が環境に適応するための訓練を行うばかりでなく、障害者自身・家族・そして彼らの住んでいる地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならない」と定義しています。そのため、リハビリテーション専門職は、障害を多角的な視点から読み解く国際生活機能分類(以下、ICF)(図1)を活用し、情報収集と整理を行って、生活障害の要因分析や予後予測(アセスメント)を行っています。

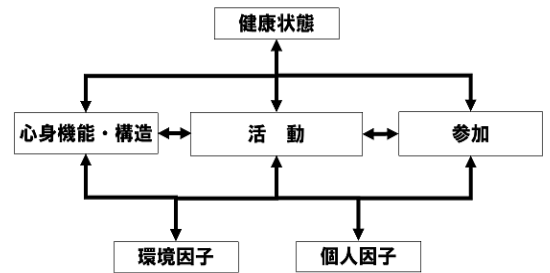


図1 国際生活機能分類 ICF

また、アセスメントで得られた情報を基に幅広い選択肢を考え提案できるようにしております。また、治療者と患者という「一対一」の関係を通じた直接的支援だけでなく、介護職等への助言を通じた間接的支援も行っています。



神戸市リハ職種地域支援協議会 長田区担当
医療法人社団 康人会
適寿リハビリテーション病院
係長 山本 将之 氏

新たな取組がはじまっています



地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護予防事業が直され、「地域リハビリテーション活動支援事業」が新たに設けられました。

神戸市でも、平成29年7月に市内の病院や施設・事業所に所属するリハビリテーション専門職の有志から組織される神戸市リハ職種地域支援協議会が設立されました。

具体的な働きとしては、地域の通いの場に伺っての介護予防講座や体力測定等を行います(図2)。

リハビリテーション専門職が医療保険や介護保険における働きに加えて、地域での活動も増えてきており、皆様と今後も多職種協働に基づき地域包括ケアシステムの構築に貢献したいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

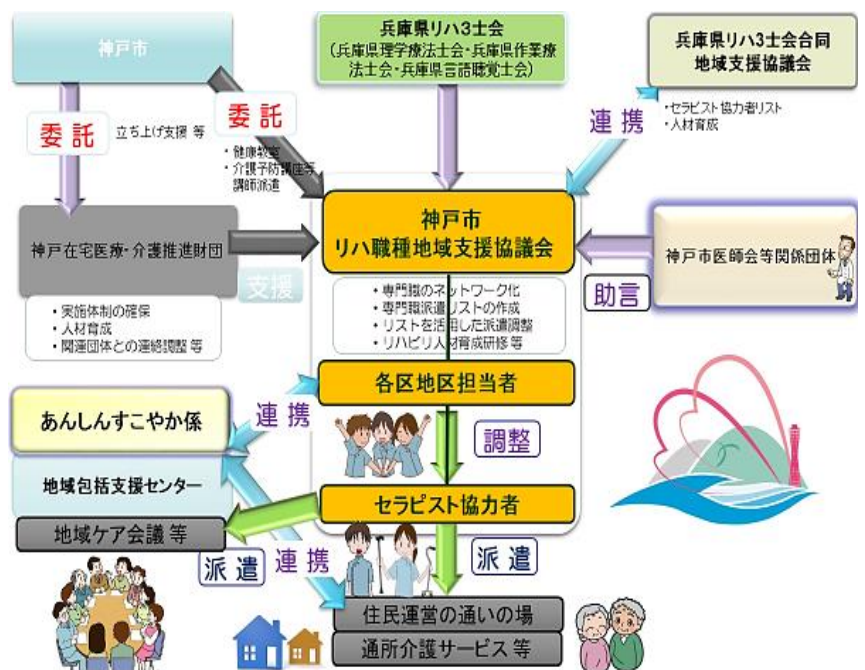


図2 神戸市リハ職種地域支援協議会の概念図

問い合わせ先：神戸市リハ職種地域支援協議会事務局 TEL：078-367-7311

